

組み込みの vRealize Orchestrator クライアントの 使用

2019 年 12 月 19 日
vRealize Automation 8.0



vmware®

最新の技術ドキュメントは、VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>) でご確認ください。このドキュメントに関するご意見およびご感想は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴィエムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

Copyright © 2019 VMware, Inc. All rights reserved. [著作権および商標情報](#)。

目次

- 1 組み込みの vRealize Orchestrator クライアントの使用 4
- 2 vRealize Automation 8.x で vRealize Orchestrator クライアントのロールを設定する 5
- 3 外部の vRealize Orchestrator クライアントを統合する方法 6

組み込みの vRealize Orchestrator クライアントの使用

1

vRealize Automation には、事前設定された組み込みの vRealize Orchestrator インスタンスがあります。

vRealize Orchestrator は、広範なワークフローおよびワークフロー エンジンのライブラリを提供する、開発およびプロセス自動化プラットフォームです。ワークフローによって段階的なプロセスが自動化され、VMware およびサードパーティ製アプリケーション間でのサーバの自動プロビジョニングおよび運用タスクの柔軟性が大きく向上します。ワークフロー エディタ、組み込みの Mozilla Rhino JavaScript スクリプト エンジン、vRealize Orchestrator および vCenter Server API を使用して、カスタム ワークフローを設計できます。

注： https://your_vRA_FQDN/vco-controlcenter に移動し、root としてログインすると、組み込みの vRealize Orchestrator のコントロール センターにアクセスできます。

組み込みの vRealize Orchestrator クライアントは、vRealize Orchestrator オブジェクトおよびオブジェクト イベントトリの管理に使用できる Git リポジトリとの統合をサポートしています。

注： vRealize Orchestrator クライアント Git 統合は、vRealize Automation Cloud Assembly で作成される Git 統合とは別のものです。

vRealize Orchestrator の詳細については、[VMware vRealize Orchestrator のドキュメント](#)を参照してください。

vRealize Automation 8.x で vRealize Orchestrator クライアントのロールを設定する

2

組み込みの vRealize Orchestrator クライアントへのアクセスは、サービス ロールを割り当てることで管理します。

vRealize Orchestrator のサービス ロールは、ユーザーがアクセスできる組み込みの vRealize Orchestrator クライアントの機能を管理します。

vRealize Orchestrator のロールの詳細については、『VMware vRealize Orchestrator クライアントの使用』の「vRealize Orchestrator クライアントのロールおよびグループの管理」を参照してください。

前提条件

有効な vIDM インスタンスから適切なユーザーとグループがインポートされています。

手順

- 1 vRealize Automation に管理者としてログインします。
- 2 Cloud Services コンソール上部のヘッダー ナビゲーションから、[ID およびアクセス権の管理] タブを選択します。
- 3 [アクティブなユーザー] タブで、vRealize Orchestrator に割り当てるユーザーのメールアドレスを検索します。
- 4 ユーザーの横のチェック ボックスを選択し、[ロールの編集] をクリックします。
- 5 [サービスへのアクセス権の追加] をクリックします。
- 6 左側のドロップダウン メニューから、[Orchestrator] を選択します。
- 7 右側のドロップダウン メニューからユーザーに割り当てるロールを選択します。
- 8 [保存] をクリックします。

ユーザーが割り当てられたロールに基づいて vRealize Orchestrator クライアントにアクセスできるようになります。

外部の vRealize Orchestrator クライアントを統合する方法

3

vRealize Automation Cloud Assembly 統合を使用すると、外部の vRealize Orchestrator クライアントを vRealize Automation 環境に追加できます。

外部の vRealize Orchestrator インスタンスのクライアントを統合することで、指定した vRealize Orchestrator 展開のすべての機能を利用できます。これには、ワークフロー、アクション、構成の要素などのオブジェクトのオブジェクト エディタへのアクセスが含まれます。

組み込みの vRealize Orchestrator クライアントを使用して作成するワークフローは、拡張性サブスクリプションでも使用できます。

前提条件

- クラウド管理者権限が付与されていることを確認します。詳細については、『vRealize Automation Cloud Assembly の使用と管理』の「Cloud Assembly のユーザー ロールについて」を参照してください。
- 外部の vRealize Orchestrator 8.0 インスタンスをダウンロードして展開します。詳細については、『VMware vRealize Orchestrator のインストール、設定、および移行』を参照してください。
- クライアントの統合先と同じ vRealize Automation 展開を使用して vRealize Orchestrator 認証を設定します。

手順

- 1 vRealize Automation Cloud Assembly で、[インフラストラクチャ] - [接続] - [統合] の順に選択します。
- 2 [統合の追加] をクリックします。
- 3 [vRealize Orchestrator] を選択します。
- 4 外部の vRealize Orchestrator インスタンスの URL アドレスを入力します。

重要： vRealize Orchestrator の URL は、`https://your_external_vro_FQDN:443` という形式で指定する必要があります。443 以外のポートを使用すると、検証が失敗することがあります。

- 5 [検証] をクリックします。
- 6 統合の名前を入力します。
- 7 外部の vRealize Orchestrator 証明書を受け入れます。
- 8 (オプション) 統合の説明を入力します。

9 (オプション) 統合の機能タグを入力します。

注： 機能タグを使用すると、複数の vRealize Orchestrator 統合を管理できます。詳細については、『vRealize Automation Cloud Assembly の使用と管理』の「プロジェクトの制約を使用した複数の vRealize Orchestrator 統合の管理」を参照してください。

10 vRealize Orchestrator 統合を完了するには、[追加] をクリックします。

次のステップ

統合した外部の vRealize Orchestrator クライアントにアクセスするには、次のようにします。

- 1 vRealize Automation Cloud Services コンソールに移動します。
- 2 [Orchestrator] を選択します。
- 3 統合した vRealize Orchestrator インスタンスに対応するタブを選択します。

重要： クラウド管理者の認証情報を持たない vRealize Automation Cloud Assembly ユーザーは、統合した vRealize Orchestrator インスタンスのタブを表示できません。
